

第七十回『M-1』とテレビとラジオとネットの隙間

考え



マ

そんなに演技が  
観たいのか？

弦楽器イルカ  ⇔ 友人



# 目次

|  |   |
|--|---|
| 第七十回『M-1』とテレビとラジオとネットの隙間～G から U へ～ . . . . . | 1 |
|--|---|



## 第七十回『M-1』とテレビとラジオとネットの隙間～G から U へ～

今回は、前回のスマホの話のアンサーで書くつもりだけど。

2010年頃から、暇ならとりあえずテレビをつけるって生活はやめた。決まったテレビだけ録画視聴するようにした。

「テレビ観ないマウント」のつもりはなくて、ちょっとそこから先の話を書いてみたくなった。

テレビを観ない理由は、「内容に見合わない過剰な演出」と「核心に触れない予定調和」が顕著になったと感じたから。

テレビに予算がある時代はまだ、過剰な演出でも内容がそれなりに見合っていた。予定調和な部分と核心をついた部分が、まだ混在していた。

テレビに予算がなくなってから、そのバランスが崩れた。演出の過剰さが内容に伴わない。強者に媚び始めて予定調和が鼻についた。

ネット情報でテレビの裏側も語られ始め、観るのがバカバカしくなった。芸能人の薬物にまつわるトラブルについても、テレビは弱い個人だけを攻撃して組織には言及しなかった。

テレビを観ない分の時間を、自分のことに使うようになった。また、余った時間でネット以外にラジオも聴くようになった。

今になってラジオは少し復調してきてるけど、それでもまだ金も人間もテレビの方が圧倒的に集まるだろう。つまり好きじゃない人でも、利益のために群がってくるのがテレビや You Tube であり、文化として不健全な発達をしている。

ラジオはリスナーの数とスポンサーの規模のバランスが（幸か不幸か）取れているので、本音の悩み相談や深夜ラジオの毒舌ノリも、ちょうどいい温度で閉ざされている。

だからこそ、好きな話を好きな人に向かって好きなだけ言える。文化としてある程度、健全な発達をしている。

ちなみにネット掲示板などは利益がなく物好きしか集まらないから、深夜ラジオ以上の誹謗中傷まで載っている。

枝葉をぶったぎって大幅に簡略化したけど、今回の M-1 はそういう話だったんだろうと思う。深夜ラジオのノリがちょうど流行るタイミングだった。

本音が過ぎれば建前が流行るし、建前が過ぎれば本音が流行る。

少し前まで「再ブレイクあだ名芸人」と「女装のふくよかな某 DX」が、弱者の立場から毒舌で人気を集めたけど、いつの間にか強者の立場になってしまった。そこから「女形の俳句俳優」や「子役上がりの俳優 MC」なども本音を武器にしたけど、元々弱者ではなかったからそこまで毒舌はできなかった。

コンプライアンスが厳しくなったのはあるけど、毒舌を売りにしてた多くの芸人たちも大御所になったので、自分の冠番組で批判したら、下からの風刺じゃなくて上からの抑圧になってしまうから、昔ほど笑えなくなった。

あと、コントと漫才では、観客が期待する演技は違う。

舞台も衣装も用意されたコントは、面白ければ茶番でもなんとか成立する。観客は笑える演技を期待しているからだ。

でも漫才はマイクの前に人間が立って話すだけだから、演技は簡単にばれてしまうし、観客は演技よりも本音の話を楽しんでいる部分がある。

そしてなにより、テクニック重視の演技漫才は飽和状態にある。芸人がコンプラを言い訳にしてリスクを背負う本音を言わなくなった分、演技を増やすことでしか笑いを取れなくなった屍が累々と横たわっている。

そんな状態で行われた大会で、本音の漫才をされた後の組は、演技がよりばれ易くなり、違和感が大きくなる。

だから今回の優勝は、漫才とテレビの、本音と建前のバランスの話だったんだろうと思う。

ちょうど、You Tube と M-1 は権威とマンネリが鼻につくようになり、弱者が攻撃する対象として良い温度になった。

W 杯も、「本音のムチ」である批判と、「建前のアメ」である激励、そのバランスが大事だと思うんだけど、今テレビでは「弱者による本音＝毒舌」の席がちょうど空いてたんだと思う。

ただこの優勝の後で、コンプラとか毒舌について我が物顔で語るのちょっと気持ち悪い。下から上に向かう構図さえ間違えなければ、やってる人は利益を犠牲にしてもずっとやってる。

それは昔からそうで、権力者が下に向かって毒舌を吐きたいなら、人心を失う犠牲を払わな

天に唾すればちゃんと戻るって、倫理の話だけじゃなくて、上に歯向かえば弱者は痛い目を

上から下に唾吐いてもハラスメントで印象悪いだけ（サッカー選手の唾吐きはパフォーマンス

あと、ヨネダ 2000 の展開は ZAZY、キュウの展開はカミナリだと思った。

最近聴く歌も、数年前に流行った邦楽に似てるのが多くて、せめてもう少し昔とか海外の曲からインスパイアされればいいのと思うけど、お笑いも一緒だね。

ただヨネダ 2000 は卓球に顔と雰囲気似てたから、歌が「Shangri-La」だったら俺は受けた。テクノ調だし。でも前に観た大便のネタよりはよかった。

漫才は過剰に演出せず、「本音＝感情」を「建前＝演技」で味付ける程度が、大半の観客の温度だと思う。「素でバカ」なヤツを連れてきて、そいつの本音を演技でうまく調整するくらいのね。

ダウンタウンだって、『ガキ〜』のフリートークは実話ベースの出来事を感情ぶつけて本音で話す形式だった。演技はあくまで、話を盛り上げる道具だった。

つまり、「過剰な偏見」ボケに対して「過剰な否定」ツッコミだとより演技になってしまふから、「苦笑いの否定で流す素人」ツッコミくらいでちょうど、感情と演技のバランスがとれてる。

それに、いくらポンコツ嘘つきダメ親父キャラの相方でも、もう地上芸人になってしまったから、いつまでもサブカル気分でダメ出ししてると、五輪炎上ミュージシャンの二の舞になりかねないと思う。子の親だからね。

勝ったらいいなどは思ってたから、個人的にはとりあえずよかった。ただ彼らも、「お笑いは復讐」であり「前回出場のリベンジ」って文脈にのっちゃってるから、優勝は笑いだけじゃなくて某時間テレビ的感動ポルノも若干入っちゃってんだけど。

でもそれも本音なら仕方ないね。嘘ではないから。

今回、そこまで興味も核心もない話だから、もういいや。

やっぱり戦争も長期化してるし、都合よく劣勢とか攻勢とか煽る無責任な人間ばかりだから、とりあえず何よりも自分の人生を豊かにサッカーしないとね。

こんな感じ。どうかな？







---

考えるウマシカ～第七十回 『M-1』とテレビとラジオとネットの隙間～

---

著 弦楽器イルカ

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---